



5 中学校期（13～15歳）

この時期は、学校や友達関係などいろいろなことに悩み葛藤する子どもにとって、家庭が精神的安らぎの場となるよう子どもを温かく見守るとともに、適宜助言をすることが大切です。

自分らしさの気付き

- 自意識過剰で感受性が強くなり、情緒不安定になりやすい。
- 他者との関係の中で自他の違いを認め、自分の特性に気付く。
- 自分のよさを実感したり自分の短所を自覚したりする。
- 仲間意識が強くなり、特定の友人と深い人間関係を築く。
- 異性との望ましい関係を学び始める。
- 自他の生命の重さが理解できる。
- 人間の弱さを理解し、思いやり、共感、感謝、批判、悲しみ等が言葉にできる。
- 社会の一員として自立した生活を営む力を身に付ける。
- 公共を意識して、自分の行動を抑制できる。
- 法やきまりの意義を理解し、公德心をもつ。
- 困難に対処することができる。



保護者のかかわりは？

- ★子どもの人格を認め、接するようにしましょう。
 - ・思春期の心と体について理解する。
 - ・性や生命について子どもに語る。
- ★自己肯定感（自分のことが好き、自分は生きている価値があると思う気持ち）を育てましょう。
 - ・他者との比較ではなく、子どもの長所をほめる。
 - ・「自分は大切な存在である」と実感できる機会をつくる。
- ★将来の夢や自己実現に向けて働きかけましょう。
 - ・点数や成績だけではなく、性格や適正なども含めて進路を一緒に考える。

